

杵屋五十助

奥州市水沢出身、大坂一輝です。現在東京藝術大学音楽学部邦楽科に在学中で、長唄三味線を専攻しています。

まずは私の生い立ちについて話をさせていただきます。私には祖母である水木歌淳が日本舞踊を教えていたこともあり、生まれた時から日本舞踊が身近にある環境で育ちました。2歳半の時に関文化センターにてかわいい魚屋さんで初舞台を踏ませてもらったので、その後も稽古を重ね、小学校6年生で水木流東京水木会より水木一弥の名を許されました。

そんな私の長唄三味線との出会いは、小学校4年生の頃でした。中学生からは、東京藝術大学音楽学部邦楽科教授の小島直文先生にご指導いただきました。高校1年生の時に先生が急逝なさってからは、杵屋五助先生にご指導をいただいた

だいております。

先日3月23日に光明山安養寺、水沢グランドホテルの2箇所にて、邦楽を専攻している同じ大学の同級生4名と一緒に長唄を聴く会の演奏会をさせていただきました。たくさんの方に聴きにきていただき、演奏会を終えることができました。

今、奥州市には長唄を聴くことのできる機会はほとんどありません。今回この演奏会をするにあたって、より多くの奥州市民の方に長唄を聴いてもらいたい、そして何よりも学校教育において長唄にあまり触れることの無い子供たちに

興味を持ってもらいたい、という思いで今回の演奏会を迎えました。

今日、長唄を含むたくさんの伝統芸能が存続の危機にあります。私は長唄を多くの人に親しんでもらうために、伝統芸能の重く堅苦しい雰囲気、を払拭できるような初めての人も関わりやすい演奏会、ワークショップを企画していきたいと考えています。そして、世界で大活躍している同郷の大谷翔平選手のように日本舞踊、長唄三味線の二刀流で世界に伝統芸能の裾野を広げて参りたいと思います。



杵屋五十助 プロフィール
奥州市出身。祖母水木歌淳に日本舞踊の手ほどきを受け、水木流東京水木会に入門。水木一弥の名を許される。現在は理事水木佑歌に師事。長唄三味線を幼少の頃より杵屋三花巴に手ほどきを受け、その後三味線を東音小島直文、杵屋五助、長唄を東音味見純に師事。杵屋五十助の名を許される。一般社団法人長唄協会会員。



- 4月5日(水) 令和5年度第1回三役会、会計監査
- 4月14日(金) 令和5年度第1回理事会
- 4月26日(水) 令和5年度総会
- 5月18日(木) 第18回奥州市民芸術文化祭「第11回吟詠吟舞の祭典」実行委員会
- 6月23日(金) 第18回奥州市民芸術文化祭「第1回実行委員会」
- 6月24日(土) 金津流梁川こども獅子舞教室開講式(参加者10名)
- 6月26日(月) おうしゅう伝統文化こども日本舞踊教室開講式(参加者13名)
- 7月7日(金) 令和5年度第2回三役会
- 7月15日(土) 令和5年度奥州市芸術文化協会芸術文化賞審査員会
- 7月19日(水) 第18回奥州市民芸術文化祭「民謡舞踊の祭典」二郷土芸能の祭典打合せ会
- 7月29日(土) おうしゅう伝統文化こどもいけ花教室開講式(参加者14名)
- 9月10日(日) 第18回奥州市民芸術文化祭「第11回吟詠吟舞の祭典」実行委員会
- 9月10日(日) おうしゅう伝統文化親子茶道教室開講式(参加者13名)
- 9月29日(金) 第18回奥州市民芸術文化祭開催(33行事延べ31日間)
- 10月25日(水) 開幕まつり(式典・フェスティバル)
- 11月9日(木) 令和5年度第3回三役会
- 11月9日(木) 「おうしゅう伝統文化体験フェスタ」関係者団体打合せ会
- 12月8日(金) 第18回奥州市民芸術文化祭「第11回吟詠吟舞の祭典」反省会
- 12月8日(金) 令和5年度第5回三役会
- 1月20日(土) おうしゅう伝統文化体験フェスタ(体験参加者204名)
- 1月21日(日) 「発表会出演者78名、入場者数423名」
- 2月16日(金) 第18回奥州市民芸術文化祭第2回実行委員会
- 3月27日(水) 令和5年度第1回事務局会議

編集後記

第18回奥州市民芸術文化祭開幕まつりの式典において、賛助会員となつて継続10年の節目にある企業へ感謝状の贈呈を行いました。当協会は多方面からのご支援とご協力でさまざまな事業を実現し、芸術文化活動の継承と活性化に取り組むことができました。この場をお借りして、あたたかいご支援にお礼申し上げます。(利)

地域の団体紹介

Vol.11

喜囃会 (きおつかい)

喜囃会110年の歴史

六百年の歴史を持つ能楽は、江戸時代には武家の式楽として重んじられ、明治以降も各層の人々によって愛好され、現在では我が国の誇る古典芸能としてユネスコ世界遺産に登録されています。

前沢では、伊達の殿様が喜多流の能楽師を抱えていたこともあって、喜多流が主流で、藩政時代から老若男女問わず、多くの人々に謡が謡われ、仕舞が舞われてきました。

現在の喜囃会は明治44年に発足し、110年以上歴史のある会で、趣味の会としては最長の団体だと思えます。喜囃会の由来ですが、鳥が鳴き交わすように朋友が励まし合つて声を出し謡い、稽古に励む会という意味で命名されたとのこと。

かつては、正月の小謡教室、新年交賀会、春秋叙勲の祝賀会、42歳厄年連への指導、敬老の日、そして結婚式・建て前と多くの出演がありました。



時代の変化とともに出演が減少し、同時に指導する先生方、会員の高齢化もあって継承に苦慮しています。東京から能楽師を迎える方法もありますが、経費の面からも難しい現状です。

幸いにも、奥州謡曲発表会(喜多流・宝生流・観世流)と関喜桜会交流会、奥州市民芸術文化祭があり、それに向けて稽古に励んでいます。また、能楽師による仙台青葉能(6月)、平泉薪能(8月)鑑賞も自己研鑽の糧になっています。(喜囃会事務局 那須川孝)

芸文協この一年

2023~2024 PHOTO GALLERY

多彩な芸術文化の事業を展開

奥州市民芸術文化祭

8月26日▼12月19日

新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、当初の計画どおりのすべての行事を開催することができ、33行事に9000人近い市民が多様な芸術文化に触れました。



開幕フェスティバルでは15団体30演目を披露。従来の民謡や舞踊、三味線の他に、今回からフラダンスやフラメンコなどの現代芸術の舞台も展開しました。(写真は9月10日「開幕まつり・開幕フェスティバル・民謡舞踊の祭典」奥州市文化会館)

おうしゅう伝統文化親子教室

文化庁事業として毎年開催。本年度は4教室50名の親子が参加。親子茶道教室の参加者はおうしゅう伝統文化体験フェスタ会場で、練習の成果を披露しました。



親子茶道教室/7月29日 奥州市文化会館

会員交流会

IBC岩手放送アナウンサー大塚富夫氏を講師としてお招きし、「言葉あれこれ」と題して岩手放送を受験した時のエピソードや、ご家族の介護など、多彩なお話に笑いあり、涙あり、時には感動ありの楽しい講演会になりました。



会員交流会/12月19日 セレモニールホール サンフレックス

国民文化祭出演

第38回国民文化祭・石川百万石文化祭2023に岩手県から唯一出演となった水沢吟詠同好会。「平泉懐古」を満席の会場で堂々と披露しました。



国民文化祭/10月22日 金沢市文化ホール

おうしゅう伝統文化体験フェスタ

1月20日・21日(奥州市文化会館)

令和4年度に引き続き開催。令和5年度は、伝統文化体験会に参加した親子が舞台で体験の成果を発表する取り組みもあり、出演した親子は指導者と一緒に元気づく太鼓の演奏を披露しました。



おうしゅう伝統文化体験フェスタ/1月21日 奥州市文化会館大ホール

副会長のつぶやき

奥州市芸術文化協会 副会長 菅原 賢一

活動継続は 先輩から川西大念佛剣舞が後継者難のため保存会に入会するように誘われて始めましたが、気が付くともう50年が過ぎ、今では胴取りをしています。

当時私の部落にも神楽の同取がおりましたが、踊り手も居ない状況でしたので、剣舞をするに決めた経過があります。入会した当時は週に3〜

4日の練習で、終わった後は直ぐに「飲み」にケーションでした。藤原秀衡が平泉に居を定めた時に川西剣舞が始まったことなどから、中尊寺で年3回の公演があり、他にも市民芸術文化祭、郷土芸能祭や各地の公演などの発表があります。発表後には懇親会をすることで続けられたと思います。

芸能団体を継続していくには、それぞれの特徴や地域性を出し、後継者を募り、練習を行うこと。さらに発表の場が多くあれば良いと思います。コロナ禍が過ぎたことから、今後発表の場が増えることを期待しています。

2023年岩手県芸術文化ジュニア文化奨励賞を受賞

「金津流梁川こども獅子躍」他の模範となる礼儀正しい態度とともに、踊りの素晴らしい姿を観衆に伝えたことの評価をいただきました。



賛助会員のご紹介

【個人賛助会員】

広野次雄	大森峰夫	高橋 力
菅原義子	佐々木八ツミ	服部つねよ
佐藤和雄	佐々木恵子	小野寺茂美
菊地栄雄	石井英明	大石 直
高野 司	笹井 基	古川和子
千葉文男	千葉トヨ子	高橋睦夫
羽藤 堯	千田弘明	菊地正宏
鈴木美喜子	宮杜さつき	水木歌淳
及川幸博	大石文雄	千葉マコ子
吉見登司	本庄昭子	小野 勇
角掛往來児	後藤セキ子	渡邊暁子
津田養市		

【法人又は団体賛助会員】

- 陸中一宮駒形神社
- 株式会社胆江日日新聞社
- 株式会社東北プランニング
- 株式会社佐々儀
- 水沢ガス株式会社
- 前沢岳風会
- 前沢岳風会小山教場(小山吟詠会)
- 岳精流胆沢吟詠会
- 若嶺流民謡若吉会
- 水沢喜多会
- 川内神楽保存会
- 前沢みずえ同好会
- 新都山流和楽会

敬称略/順不同 令和6年3月31日現在

賛助会員加入のお願い 当協会は芸術文化の後継者育成や伝統文化の継承など、地域文化発展のための事業を行っています。奥州市の芸術文化活動並びに当協会の事業、運営を側面から支援して下さる賛助会員を募集しています。

【送金先】 郵便振替 口座番号 02200-7-135788 奥州市芸術文化協会

■個人賛助会員 1,000円 ■法人又は団体賛助会員 5,000円 金額は一口です(年額)

奥州市芸術文化協会芸術文化賞受賞者

江刺ユネスココーラス
佐々木陽子
江刺短歌会
安部 謙
江刺俳句協会
大平保男
いさわえく俳句会
千葉節子
民謡保存会水沢支部
千葉ユキ
胆沢短歌会
阿部洋子
喜千家淡交会水沢茶道会
青木 梢
平井櫻子
水沢流華道会
山口勝子
前沢俳句会
千田勝子
岳風流江刺吟詠会
千葉文男
胆沢民謡保存会
加藤正太郎
衣川芸能愛好会
菅原光子

及川 貢
陸中一宮駒形神社
千葉建設株式会社
株式会社佐々儀
水沢ガス株式会社

敬称略

